

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3873600468
法人名	医療法人 大志会
事業所名	グループホームうちこ園
所在地	愛媛県喜多郡内子町内子3683番地
自己評価作成日	平成22年 9月24日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

閑静な環境を活かして四季を満喫しながら、畑での野菜作りにより、入居者の役割や出番を提供することが出来ます。また母体である老人保健施設との広い中庭を活用して、散歩をしたり、お茶をしたりゆっくりとつろぎ日常的な活動のきっかけ作りにと役立てています。更に日勤帯は4、5人体制で入居者の個別介護にゆとりを持ってきめ細かい支援を目指し、心から笑っていただく介護の提供に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

玄関には、地域の人からプレゼントしてもらった季節の木の実や落ち葉を使ったオブジェが飾られてあった。又、椅子を置いて、利用者が座って靴を履けるようにされていた。テーブルには季節の花を飾り、畳の間には掛軸を掛け、懐かしい雰囲気のカンパシ等も見られた。居室入口には、利用者が書いた名札を掛けておられ、場所を間違いない利用者には、居室とトイレが分かるように表示されていた。デイの利用者がうさぎを譲ってください、利用者が餌をやる等、大切に世話されている。
「今までは、業務や運営を良くしていくため」の係を決めておられたが、事業所は、開設5年を経て「さらなるサービスの質の向上を図るために今後どうしたらいいか」と話し合い、職員一人ひとりの得意なこと等を活かして、取り組んでみたいことに焦点を当て係を決められた。全職員が正職員であり、利用者個々のケアについても意見を出し合い、話し合いながら取り組みをすすめておられる。玄関前には、職員が自宅で育てた菊の鉢植えが飾られていた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	<ol style="list-style-type: none"> 大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目：30,31)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 			

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームうちこ園

(ユニット名)

記入者(管理者)

氏名

片岡 知恵美

評価完了日

平成 22年 年 9 月 30 日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 全職員で意見を出し合いながら作り上げた理念と更に理念に対する目標を具体的に掲げて事業所内に掲示し、日々の介護に振り返り活かすように意識付けをしている。また毎朝のミーティングや職員会議等で常に介護の原点として皆で共有し確認し、介護サービスの質向上にと役立てている。	
			(外部評価) 玄関、居間、廊下、事務所等に「入居者の基本的人権を守り、利用者の立場に立ち『まごころ』と『おもいやり』を信条として安心して暮らせる場を提供します」と事業所の理念を掲げ、さらに、目標の一つに「地域の一員として協力し支え合える地域作りに励みます」と挙げて、職員と共有しながら取り組みをすすめておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 弘法大師ゆかりの思案堂に参拝して近所の方と交流したり、生きがいサロンに参加して地域の方と親しく交流している。また通所サービスを利用している地域の知り合いの方々と出会うことができ定期的な交流になっている。地区の保育園、小中高の学生のボランティア活動による交流も活発にしている。	
			(外部評価) 隣接施設のデイケアの利用者が、中庭を散歩する際には、ホームに立ち寄りられたり、催し事等でも交流されている。中、高校生の職場体験を受け入れておられ、又、秋祭りには子供御輿が来てくれたり、保育園児の訪問時には、歌を歌ってくれたり、握手等をして触れ合いを楽しまれた。年4回発行している「グループホームうちこ園通信」を町役場や地域に配っておられる。管理者は、いろいろな方に「来てもらうことが大切」と考えておられ、クリスマス会には、地域のダンスを習う子ども達に来てもらってダンスを披露してもらったり、保護者の方達も来てくれる予定となっていた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 実習生の受け入れを実施している。また認知症の理解を深める研修会を地域で開き、地域住民が多数参加する事により認知症があってもごく自然に地域で暮らしていけるという、意識作りに努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 会議型と交流型の推進会議を進めることで、サービス評価や情報の公表、運営理念に基づく介護サービスの提供状況等について理解を深め、更に運動会、お弁当を上げる会、うちこ園祭りなどの行事を通して入居者と直接交流を図り理解を深めるように、運営推進会議、町内の連絡会、家族会との横のつながりによる地域支援のネットワークの原点として取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 会議時に出席者から「利用者さんと一緒に七夕飾りを作り飾る等、何か直接ふれ合う場を会議で作ってはどうか」との提案があり、7月の運営推進会議に実行された。事業所から日々の取り組みやサービス評価について報告されたり、時には、町内の「グループホームの連絡会」主催の運動会や講演会に、会議メンバーにも参加していただき、ともに活動したり勉強しながら理解や協力を図り、会議とされている。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 各グループホームの連絡は基より、町内グループホームの連絡会に必要時は参加してもらったり、認知症研修会や合同運動会などにも参加してもらい町内の認知症介護等の課題についての認識を共有し、相互間の連携を図りながら課題のついて提案しあえる協力関係を築いている。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議時に、町内の介護保険サービスの実状について説明して下さったり、町がすすめている介護に関する取り組みについて報告していただいている。現在、事業所側から、サービスのさらなる質の向上に向けて介護相談員制度の導入の希望を町に働きかけておられる。</p>	<p>事業所では「利用者が、職員に直接言いにくい事を、介護相談員に話していただき、それらをサービスに採り入れていきたい」と考えておられる。ご家族の中にも「協力したい」との思いを持っておられる方もあるようだ。町の認知症ケア・介護サービスの質向上に向けた取り組みについて、今後も町と話し合いを続けていかれてほしい。</p>
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 身体拘束は行わない介護を全職員が理解し運営理念を通して常に認識し、自覚しない拘束が発生しないように指定基準における禁止の対象である行為について、全職員で確認しあっている。法人内でも定期的に身体拘束や高齢者虐待防止法についての勉強会を開き知識を深めている。</p> <p>(外部評価) 職員は、日々「身体拘束をしないケア」について確認し合い、理念の「まごころ」と「おもいやり」のあるケアの実践に努めておられる。玄関やベランダは施錠せず、利用者が出ることができるようにされていた。管理者は、職員が発している言葉について、気になるような時には、話し合うようにされている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 高齢者虐待防止法について愛媛県グループホーム協議会主催の研修会に参加したり法人内で実施している研修会にも積極的に参加して見識を深め、また更に職場内でも勉強会を開いている。職員会議や日常的なミーティングで共有認識し合って、虐待防止への毅然とした姿勢を整えている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 権利擁護制度利用の該当者は現在いないが、今後必要性が生じた場合は各関係機関と連携しサービス利用を促すようにしていく、また成年後見制度及び生活自立支援事業についての研修会に積極的に参加して持ち帰り、職場内でも共有しあっている。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時は契約書や重要事項説明書、医療連携体制及び見取りの体制についても説明し納得を得るように努めている。契約の改訂では改訂資料を提示して詳しく説明し同意を得るようにしている。契約解除においては本人や家族の意向を考慮し今後の対応の相談をする体制になっている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 入居者の意向や思いを表しやすいように選ぶ機会や、決定場面の働きかけに努めている。また日常の生活場面で本人の言動や会話により、要望を見出し職員間で共有して満足してもらえるように工夫している。家族会での話し合いやアンケートによる意見要望の集約をしたり、日々の面会などで直接要望を聞き出すような工夫も実施している。 (外部評価) 今年度から、ご家族への連絡事項とともに、担当職員が利用者ご本人の様子を書いて写真を添え、ご家族に送付されている。ご家族からのご意見については職員で話し合い、対応策を検討して、その後、報告を行う等、ご家族との信頼関係作りに努めておられる。ご家族から居室の温度について意見があった際には、職員で話し合い毎朝、室温を確認してクーラー等を用いて室温調節を行うようにされた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価)</p> <p>毎日のミーティングや毎月の職員会議により「職員の意見要望及び職場改善策」という項目において検討している。また定期的な個人面談や職員親睦会等を通して意見を聞きだすように努め、法人運営における懸案や決定事項について全職員で共有し合い意見交換を勧めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>「今までは、業務や運営を良くしていくため」の係を決めておられたが、事業所は、開設5年を経て「さらなるサービスの質の向上を図るために今後どうしたらいいか」と話し合い、職員一人ひとりの得意なこと等を活かして、取り組んでみたいことに焦点を当て係を決められた。全職員が正職員であり、利用者個々のケアについても意見を出し合い、話し合いながら取り組みをすすめておられる。玄関前には職員が自宅で育てた菊の鉢植えが飾られていた。</p>	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価)</p> <p>年2回の人事考課を機会とし個人面接を実施すると同時に法人内の親睦会、全体会、勉強会などを通して理事者や代表者との交流が図れ、自由に意見が述べられる機会がある。また就業規則により職務や条件は定められており納得できる体制になっている。</p>	
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価)</p> <p>職場内研修計画と各職員ごとの個別研修計画及び就業時の新人研修計画及びOJT計画などの作成と実施により徹底した研修によるスキルアップを図っている。また愛媛県及び内子町内におけるグループホーム合同研修会に参加したり法人内の研修会にも参加してあらゆる機会において質向上を図っている。</p>	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	<p>(自己評価)</p> <p>愛媛県グループホーム協議会に入会して交流を図り、町内でグループホーム連絡会を自主的に作り研修会や勉強会を開催したり、合同運動会、合同研修会を開催して地域の協力を得るなど地域密着型としての役割を図っている。</p>	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価)</p> <p>自宅訪問による事前調査を行い、ご本人の生活状況や生活習慣、馴染みのものについてなど細かく把握している。次に施設見学をして頂き、大まかな理解と納得を得て、入居の段階では慣れた場所として認識していただき、困っていることや要望などの現状を把握し関係作りに努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族の状況や本人の現状を把握し共有すると共に、家族間での思いや考え方の違いなども把握して、家族と一緒にご本人を支えていく姿勢を持ち、徐々に本人への思いが重なり合い励ましあえる関係作りに努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族の要望や現状について、現在必要なサービスと今後更に必要であろうサービス等について説明し、サービス内容を自由に選択できるように促し、必要時は担当ケアマネや支援センター及び介護保険課等の協力を得て解決するように連携を図っている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一人ひとりのできる事を引き出す介護を続けるなかで、得意なことをできる工夫をして生活行為の参加を促し、感謝して役割や達成感を持ってもらえるように、セッティングして勤めている。介護されていること意識を持たないような介護の方法に努め一部分でも参加してもらうように工夫している。	
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族会の交流会や日々の面会の機会を通してお互いの信頼関係を深めながら、日常的なご本人の現状について共有しあい共感し合っ、共にご本人を支える支援者同士として連携している。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 町内の商店街や道の駅「からり」に買物に行き馴染みの人たちと顔を合わせて話したり、昔からの行きつけの美容室を利用している。また馴染みのお寺にお参りしたり、行事に参加したりして昔を懐かしんだりして、地域社会との関係を継続している。	
			(外部評価) 隣接の法人施設から入居された方は、親しかった入居者や職員に会いに行かれることもある。ご自宅の近所の人達が会い来てくれることもある。ご家族が迎えに来て定期的に外泊する方もいる。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 気の合うもの同士での交流が自然に持てるような働きかけのなかで、更に注意して見守りながらふとしたきっかけより新たな関係性が見出せるように散歩や野菜作りの協働を勧めたり、また少人数での外出を実施したりして関係を深める支援をしている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後もご家族が継続して遊びに来ていただき、今ではボランティアとして、入居者との話し相手になったりしている。またうちこ園祭りや、運動会などにはその友達などの輪が少しずつ広がり地域交流にもつながっている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) センター方式を使用して一人ひとりの希望や意向等の情報を職員間で共有し日々の介護に活かしている。意向や希望は固定化せず成り行きや場面によって、本人の言葉や表情により真意を測りながらその時々での意向も確認するようにしている。	
			(外部評価) センター方式を用いて利用者一人ひとりの希望や情報を集めておられ、新しい情報は色を変えて記入して情報を蓄積されている。事業所は利用者の重度化の現状にあり、意思表示が難しい利用者もおられるが、職員は、個々の表情やしぐさ等からも思いの把握に努めておられる。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 自宅での生活の習慣やご本人の生活の歴史、また自宅周辺の環境及び家族関係についてなど、入居に至る経過を把握し、入居後も引き続きセンター方式を活用して、総合的な理解把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 入居者の個別の生活スタイル、リズムに添って出来ること、できないことの日差変動及び日内変動の状況を細かく観察し、その時々に応じた対応を心がけ、職員全員で共有し把握するように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 毎日の生活から介護の組み立てにより客観的な視点での介護内容を家族や職員が共有し、よりよく生活するための支援を盛り込むようにしている。個性や意向を大切に本人や家族、職員や主治医、関係者等の気づきや意見を検討して総合的な介護計画を目指している。</p> <p>(外部評価) これまでの利用者個々の「履歴」と、日々のケアの記録をもとに、その人がより良く暮らすために「出来ることを支援」できるような介護計画の作成に取り組んでおられる。センター方式の「私ができること・私ができないことシート、私ができること・私ができないことシート」等をモニタリングに使用されている。3ヶ月毎の見直しの際には「起床、移動、食事、排泄、家事の状況」等細かくアセスメントして、ご家族にも報告したり話し合いながら、より現状に即した計画が作成できるよう努めておられる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) SAOP式の介護記録形式にて出来ること出来ない事、介護状況についてや身体状況、食事や水分摂取状況等を日々記録することで情報を共有しセンター方式を含めて個別記録と介護計画が総合的に連動できる体制にしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 通院や送迎等の柔軟な対応にて重度化及び高齢化に伴う家族状況や要望に応じていくように支援している。法人内の施設や機能を活用して生活リハビリを充実させ自立支援が図れるように努めている。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域の生きがいサロンに定期的に参加して地域交流を図り、話し友達も少しずつ増えてきている。また地域の祭りや商店街の催し物に出かけて見物したりして楽しんでいる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居者一人ひとりの主治医の継続的な医療が受けられるよ うに、また受診時の送迎や生活状況及び身体的一般状態 を細かく報告し医療連携を図りながら、異常の早期発見に 努めている。また家族への連絡も詳細にしてご本人の情報 を共有している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>かかりつけ医や協力医の歯科への受診は職員が同行され、 法人の医師の往診も受けておられる。松山市の病院への受 診には、ご家族が付き添ってくださっている。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>管理者は看護師でもあるため入居者の日常的な一般状態 を注意深く観察し健康管理を行っている。また主治医との連 携を密に図り医療面や栄養面での助言が日常的に気軽に 受けられる体制が整っている。</p>	
			<p>(外部評価)</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>(自己評価)</p> <p>病状や入院治療方針、今後の注意事項について等家族と 共に説明を受けたり、病院の看護師や本人及び家族と情報 交換を図るなどして退院後の過ごし方などについても把握で きるように説教区的に働きかけている。</p>	
			<p>(外部評価)</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>医療連携体制及び看取り介護に関する指針について説明 したり文書にて共有し、重度化や終末期の対応について本 人や家族及び主治医を交えて同意書を作成して方針を統 一している。また状態の変化に応じて検討を重ね合い、気 持ちの変化にも柔軟に対応するように努めている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、ご本人の状態 変化時にご家族の希望を聞いたり医師とも話し合いながら、 その後の対応について決めるようにされている。管理者を始 め、職員も数名、看護師資格を有する職員がおられる。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署の救命講習会に参加して救命技能を経験できるようにしている。また緊急時の対応マニュアルや法人内の協力体制にて応急手当や連絡方法等の留意事項を周知して職員会議でも話し合っている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防署の協力によりグループホームを主体にしたり、夜間想定による訓練をして、避難誘導や避難経路の確認、消火器の使用法の訓練をおこなっている。法人内には災害時に備えた日用品や食料品、飲料水を備蓄しており万が一の場合に備えている。耐震地盤の整備があるため地域への避難協力が可能である。 (外部評価) 避難訓練は、常に隣接の母体施設と合同で実施することが法人の方針となっており、夜間を想定した避難訓練も毎年行っており、利用者全員の避難誘導や連絡方法の確認が行われた。	法人は、事業所と「地域との連携」の大切さを感じておられる。今後さらに、運営推進会議等も活用して、地域の人達と実際に避難訓練を行ってみたり、ご意見等もいただきながら、さらなる利用者、職員の安全安心のためにも取り組みを重ねていかれてほしい。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 基本的人権を尊重するという理念に基づき、入居者の意向や気持ちを尊重して確認しながら介助を勧める事、入居者は目上の方で人生の先輩である事から敬語で接する事、十分プライバシーに考慮した声かけや誘導をする事などについて、採用時や職員会議、毎日のミーティングで話し合い認識、合意している。 (外部評価) 事業所では、理念にある「おもいやり」と「まごころ」を持って、利用者一人ひとりに接する事を心がけておられる。ベッドで過ごすことが多い利用者には、目覚めている時は、頭の向き等に配慮して、外の景色が見えるようにされたり、リクライニングの車いすを使って皆と居間で過ごせるような時間を作る等されている。トイレ誘導の際には、ご本人に小さく声かけされ、使用後は、排煙窓を開ける等、臭いにも気を付けておられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 入居者個人の嗜好や関心、好みを日頃の関わりの中から見極め、自ら選択できる場面作りに心がけている。また各個人の好みや嗜好をパターンの決め付けず、気持ちや好みの変化についても敏感に捉えられる介護に努め、些細な表情や言動から読み取り共有し、共感できるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その日の体調や天候等に合わせて、買物や外出散歩や受診と一人ひとりの意向を確認しながら生活リズムを整えたり、その日の望みを押し量り自発性を刺激して、柔軟に対応できるように職員側の余裕も持ちながら支援している。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 毛染めやパーマを行きつけの美容室でもらったり、訪問美容でおしゃれができるように取り組んでいる。また日々の衣類の組み合わせや、衣類のズレ直しなどを工夫して整容を細かく注意して身だしなみを整えている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 毎日の買物、畑からの収穫により食材を調達し、下ごしらえや調理、盛り付けや配膳、後片付けなどの作業に一人ひとりの力量に応じた参加ができるように働きかけ、一緒に出来る過程や料理の味を喜び合うようにしている。	
			(外部評価) 利用者が畑の野菜等を収穫したり、下処理をしてかわり、新鮮な野菜をふんだんに使って調理をされている。調査訪問時の昼食は、山芋入りのつくねハンバーグでとても柔らかく、野菜の煮物等も、形をそのまま残して柔らかく煮込んであり、嚥下状態が低下している利用者にも、刻みやミキサー食にしなくても食べられるようにされていた。職員は、利用者のご自分の力で食事することを見守り、様子を見ながら介助されていた。テレビを消して、小さな音でクラシック音楽を流しておられた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事、水分摂取量は詳細に記録し継続的な観察において、一人ひとりの状況が把握できるとともに、摂取量や栄養のバランスを保持している。また職員及び家族や主治医が共有する情報としても役立てている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔内に残渣物が残っていないか、うがいや歯みがき時に注意して誤嚥予防にも心がけている。義肢は就寝前に消毒し、歯茎のマッサージはスポンジはブラシを利用して口臭が発生しないように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 一人ひとりの排泄パターンや生活リズムを把握しトイレにタイミングよく行けるようにサインや意思表示を察知して、さりげなく誘導してトイレで気持ちよく排泄ができるように支援している。夜間はオムツ対応の人でも昼間は尿パットを上手に活用してトイレで自然に排泄できるように工夫して誘導している。	
			(外部評価) 記録にて利用者個々の排泄パターンを把握し、昼間は、トイレで排泄できるよう声かけや誘導をされている。事業所内にトイレを多く設置されており、居室と居室の間にもトイレがあり、利用者は、自分用のトイレを使用することで安心して排泄できるようだ。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 日中の生活活動を働きかけ適度の運動を取り入れ、繊維の多い野菜やイモ類、海藻類、きのこ類を毎日の調理に使用して腸内環境を整え、自然な排泄が出来るように努めるとともに、便秘気味の方にはセンナ茶やゴマを利用して排便の管理にも努めている。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入居者の希望にあわせていつでも入浴が可能なように浴室環境を整えている。入浴への抵抗がある場合はその人の好きなことをまずしてその延長で引き続き入浴できるように誘導するなどの創意工夫を凝らして施行している。	
			(外部評価) 湯温を一定に保てる浴槽を使用しておられ、利用者がいつでも入浴出来るように準備して、利用者個々にタイミングを見ながら入浴の声かけを行い支援されている。介護度が重度の利用者も、職員が3人で介助して、ご本人が浴槽で温まれるように支援されている。入浴を嫌がるような利用者には、ご本人のお好きな花や野菜を採りに行ったり、眺めたりしながら、タイミングを見計らって入浴へ誘う等、嫌な思いをせずに入浴できるよう、配慮や工夫をされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 入居者個人の表情や身体状況により食後は自室でゆっくり休憩できるように誘導したり、また自室で閉じこもりがちな場合は適度な生活行為や散歩外出を働きかけて気分転換を図り夜の安眠に繋げるなどの工夫をしている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬局から配布される薬説明書を各個人記録と共に綴り内容を認識し共有している。1回分ずつ手渡して服薬の確認をし、誤薬のないように注意している。また下剤などの利用者については日頃の排泄状況等の観察とあわせて必要時は主治医に報告している。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 入居者一人ひとりの残存能力を引き出し活用して、洗濯物を干したり、料理の下ごしらえ、野菜作り、花の植え替えなどの出番を作り活躍できるように支援している。時には喫茶店でコーヒーや紅茶などを楽しんだり、買物や外食で気分転換を図ったりしている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 毎日の買物や少し遠くの集合店に足を延ばしたり、一人ひとりの希望にあわせて気軽に出かけている。四季折々の花を探して見物したり、神社やお寺をめぐるように支援している。家族の協力を得て自宅近くの畑に行く予定も立てている。	
			(外部評価) 利用者の体調や希望、状態をみて、ご家族とも相談しながら外出を支援されている。中庭の散歩や、日々の食材の買い物、季節のお花見や、利用者からの希望でコーヒー等を楽しみに出かけることもある。今夏は、高速道路を利用して、少し遠出して、西予市の観音水のそうめん流しに出かけられた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 財布やバッグを持ってきて少額を自分で持っている人もある。買物や外出時は一緒に金額を確認し「安い、高い」と言い合いながら選んだりレジで支払いをしてもらうこともある。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話はコードレスの受話器にて適宜自室でゆっくり会話する事もできる。本人の要望にていつでも電話ができるように、職員からも声かけて通信体制を整えている。一人ひとりの力量に応じて年賀状を作製してご家族にや孫など親族に送り飲んでもらっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>居室と廊下の空間に暖簾で仕切りちょっとひと休みできるように椅子を置き個室と共用間の堺にしている。居間や食堂台所は仕切りがないので気兼ねなく入り作業がし易いようになっている。畳の間はコタツや火鉢を置き冬場の暖がとれるようにしている。温度計湿度計にて気温を管理し排煙窓の開閉により冷暖房の空気の淀みを解消し環境整備に努めている</p> <p>(外部評価)</p> <p>玄関には、地域の人からプレゼントしてもらった季節の木の实や落ち葉を使ったオブジェが飾られてあった。又、椅子を置いて、利用者が座って靴を履けるようにされていた。テーブルには季節の花を飾り、畳の間には掛軸を掛け、懐かしい雰囲気のカンパネ等も見られた。居室入口には、利用者が書いた名札を掛けておられ、場所を間違いやすい利用者には、居室とトイレが分かるように表示されていた。デイの利用者がうさぎを譲ってください、利用者が餌をやる等、大切に世話されている。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>ベランダやテラスに椅子を置き畑の育ち具合や園庭を見つめたり、廊下や居間のあちこちにちょっと座って一呼吸置けるスペースを設けている。玄関の外内の椅子は出入りの靴の履き替えや面会者のお見送りなどさまざまな用途にて重宝している。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>家族の協力により自宅で使い慣れた物や、じぶんが作成した作品などの馴染み深い品物を持ってきてもらい居室に置くことで、「ここは何処やろう」と急に不安になる人でも自室に入ると安心され納得される方もある。一人ひとりの安心の源を増やしていくように努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>利用者で作ったペーパーフラワー、布ぞうりや「さくらほりきり」の書類ケース等が飾られていた。使い慣れたカバンや椅子、テーブル、鏡台、日付と曜日の入った大きな時計があり、お気に入りの化粧品やそろばん、書き取り帳も見えるところに置かれていた。ご家族と一緒に写真やお孫さんの結婚式の写真・観葉植物の鉢植えを置いている方もあった。利用者一人ひとり「落ち着いて過ごせる居室」となるよう、ご家族と相談しながら工夫されている。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>居室の名札やトイレなどの表示は入居者一人ひとりの目線に合わせるようにしている。食堂のテーブルの飾りつけは最小限にして混乱や混同が起きないように改善した。入居者の目線で環境を整えるように努めている。</p>	